

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ちびこば岸和田		
○保護者評価実施期間	令和7年2月12日		～ 令和7年3月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17人	(回答者数) 11人
○従業者評価実施期間	令和7年2月12日		～ 令和7年3月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数) 2人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々のショートミーティングに加え、月に1回、必ず、全体ミーティングと共に内部研修をしている。	内部研修資料と共に専門的な動画なども利用し観るようになっている。その他参考になる動画の案内をスタッフにもしている。	ZOOM機能などを利用し、出勤が難しいスタッフも受講しやすい環境を整えていく。
2	学習支援の現場において、教科書に沿って支援テスト前勉強に取り組み、個々の特性に応じた学習法で支援をしている。すららを取り入れ、学習への興味を引き出すようにしている。	・それぞれの利用者の特性をスタッフ全員が周知認識し、個々の特性に合った学習支援に関わっている。 ・利用者の学習の課題を日々の療育日誌、スタッフ間で共有している。	利用者同士で、先輩が後輩に学習支援をするなどOJTも取り入れ、双方に対し相乗効果が出るように仕組んで行く。
3	イベント活動では、季節感を感じるイベント、体験型のイベントなど、楽しめるようにしている。	児童にイベントのリクエストを聞き、発言のできる機会を設けている。また職業体験のイベントを通じて、社会の暗黙のルールや仕事について学びや体験の機会を設けている。	児童だけではなく、保護者にもイベントのアンケート実施していくことで、イベント内容の幅が増えるようになる。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小学生高学年や中学生の利用者が多く、中高生になると利用回数が激減する。	クラブ活動や塾などがあり、小学校高学年、中高生になると下校時間が遅くなることから利用回数が大幅に少なくなる。	中高生になっても療育は必要であり、閉所時間の延長や部活が休みになる定期テスト期間などに積極的に通所できるようなプログラムも必要。
2	利用者と共に体を動かすことができる若いスタッフ、現場スタッフはいるが、送迎など運転できるスタッフが少ない。	常に求人募集を行っているが、なかなか採用に至らない。物価高騰の中、給与体制にも問題があるのかも知れない。	会社全体として売上げが上がって行かなければ賃金も上がらないとの事で、新規利用者獲得と現利用者の利用頻度を増やす工夫。
3	送迎サービスを積極的に行っているが、コスト(車両関連、送迎スタッフ、送迎シフト作成)が多く、業務が多忙になっている。	自立支援も考慮し、徒歩や自転車交通機関利用など、通所の手段を自力で行える利用者には、提案をしていく。	お迎え時間、お送り時間など、できる限り前後の時間や場所などを考慮し、乗り合わせの工夫をしていく。